

授業科目(ナンバリング)	専門演習 B (DA302)			担当教員	坂本 雅俊		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
授業における演習プログラムのテーマは「ソーシャルワークに関する方法」についてである。学生は、「社会科学的認識能力」を身に付けることができる。特に、福祉利用者の実像を知るためにボランティアにでかけ、社会人として必要なパフォーマンスの力を体得する。そのため学生の理解度と興味に合わせて学習素材をその都度提供する。							②④⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	医療や福祉に関する社会問題等について、多角的に情報を収集することができる。				授業での意見交換のレポート	20%	
コミュニケーション力	ボランティア先において、多様な年齢・職業・状況の人々と接するなかで、楽しい日常会話の時間を創ることができる、そうしたコミュニケーションの力をにけることができる。				福祉ボランティア研修	50%	
協働・課題解決力	医療ソーシャルワークや福祉教育を題材として考えることで、協働して課題解決していく力を身に着けることができる。				福祉ボランティア研修	30%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
適切に自分の意見をまとめ、積極的に意見交換すること。その代表的な意見を振り返りで学生同士共有する。学生の意見についてフィードバックを行う。授業での意見交換をレポートにまとめ提出する。レポートにより 20 点の評価を行う。また、フィールドワーク・福祉ボランティア研修へ参加することで 80 点の評価を行う。評価内容は、友人や社会人の意見を聴き、多様性を理解し、共生についての理解、そしてそれを言葉と文章で表現する。振り返りにおいて、これらの意見交換を行い、到達目標の能力ごとに評価する。							
授業の概要							
生活問題や課題を毎回のテーマとして与え、これを軸として福祉への関心を高め、言葉と文章で意見交換やディスカッションを行い、フィールドワークに取り組む。テーマにそって ICT を用いてゲストと意見交換できる機会を設ける。その際、教師が適切に介入して、フィードバックを行うことで、学生のパフォーマンス力の成長を促す。学生の成長は大学ポートフォリオに記入してまとめとする。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は 45 分とする。							
教科書・参考書							
教科書：『現代社会福祉用語辞典』（2017）九州社会福祉研究会編 学文社 参考書：真田是（2012）『著作集』福祉のひろば 指定図書：関家新助（2004）『西洋哲学思想と福祉』中央法規							
授業外における学修及び学生に期待すること							
学生だからこそできる研修を積み上げてほしい。医療機関、子ども学習支援の現場への体験訪問等将来にソーシャルワーカー職に就いたとき、必要な「価値観」を磨くことになる。専門演習は就業生活設計の方向付けに活用して欲しい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	後期の演習日程を知る。ゼミの運営方針を再確認	学修についての後期の計画を共有する
2	利用者の暮らしの実態を知る①	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける (2~8 回まで、フィールドワーク・福祉ボランティア研修に取り組む)	自分の目標を立てて実行する
3	利用者の暮らしの実態を知る②	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分の目標を立てて実行する
4	利用者の暮らしの実態を知る③	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分の目標を立てて実行する
5	利用者の暮らしの実態を知る④	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分の目標を立てて実行する
6	利用者の暮らしの実態を知る⑤	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける ゲストとの意見交換	自分の目標を立てて実行する
7	利用者の暮らしの実態を知る⑥	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分のパフォーマンス力を振返る
8	利用者の暮らしの実態を知る⑦	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分のパフォーマンス力を振返る
9	論文の執筆に向けて①	卒業論文に向けて、これまでのパフォーマンスからテーマを考える	自分の目標を文章化する。
10	論文の執筆に向けて②	卒業論文に向けて、これまでのパフォーマンスからテーマを考える	自分のパフォーマンス力を振返る
11	論文の執筆に向けて③	卒業論文に向けて、これまでのパフォーマンスからテーマを考える	自分のパフォーマンス力を振返る
12	論文の執筆に向けて④	卒業論文に向けて、これまでのパフォーマンスからテーマを考える	自分のパフォーマンス力を振返る
13	発表会①	自分のテーマを発表することができる	自分のパフォーマンス力を振返る
14	発表会②	自分のテーマを発表し、友人の発表について質問することができる	資料をまとめる
15	前期のまとめ	振り返りと総括、今後の方向を話し合うことができる	振り返りと発表

授業科目(ナンバリング)	専門演習 B (DA302)			担当教員	久田 貴幸		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習は、専門演習 A から継続して行われ、卒業研究へ続く科目である。専門演習 A に引き続き、文献の検索方法、論文の読み方や書き方についての力をさらに高めていくことを目的とする。授業のねらいとして、福祉における自身の問題意識や課題を整理したうえで文献を読み込み、まとめることで卒業論文を執筆する際のテーマを絞り込み、研究計画を立てたうえで執筆を開始することとする。</p> <p>本演習においては、他者の意見に傾聴し、謙虚に受け入れることができ、自身の考えとの相違を理解したうえで、必要性を検討したうえで論文に取り入れることが出来るようになることもねらいとする。</p>							①④⑤⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> 図書館やデータベースを使用し、関心ある福祉の問題について調べることができる 論文を執筆する意義を理解した上で論文とは何かを説明できる インターネットを活用して情報収集ができる 				レポート	20%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> 関心のある福祉の問題について、それまでの背景や現状について説明することができる 他者の関心ある福祉領域に対して関心を持って聴くことができ、質問を行うとともに自分の意見を述べるができる 				授業での発表レポート	40% 10%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> 他の学生が関心ある福祉の問題にも関心を持ち、議論に参加できる 国家試験の概要について理解したうえで、今後のことができる 				授業での発表	30%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業での発表 (70%) については、レジュメに沿って聴き手に対しわかりやすい表現であるかを適宜確認し、フィードバックを行う</p> <p>レポート (30%) については、授業内容や配布資料等の内容を理解し、自分の故後場で説明できているかを確認し、返却の際にフィードバックを行う</p>							
授業の概要							
<p>いくつかの書籍や論文を読みながら、研究とは何か、論文とは何かについて学ぶ。発表を通し自分自身が興味ある分野を明らかにしていく。また、自分自身が興味ある分野で最近どのような研究が行われているか、取り組みが行われているかを調べ、発表を行う。また、卒業論文作成に向けて資料集めや国家試験学修に着手する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない</p> <p>参考書：なし</p> <p>指定図書：岩田正美・小林良二・中谷陽明・稲葉昭英[編] (2006)『社会福祉研究法 現実世界に迫る 14 レッスン』有斐閣アルマ</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習では、卒業論文を執筆するための基本的なルールや流れについて解説・助言を行っていく。また、自分自身の興味ある分野を明確にするために自発的に取り組んでもらうことになる。そのため、受講学生自身でレジュメやレポート、それに基づく発表などが本演習の題材となる。また、他者との関わりを重視するため、他者と協働して物事に取り組み課題に取り組むことも期待する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	前期の学修を振り返り、それを踏まえて後期のスケジュールを確定する。	(予習) 前期でこのようにしていることがないかを確認し、後期に取り組むことを確認する。
2	先行研究のレビュー①	先行研究をレビューするための方法を確認し、情報収集を行う。	収集した先行研究をまとめる
3	先行研究のレビュー②	先行研究をレビューするための方法を確認し、情報収集を行う。	収集した先行研究をまとめ、より充実したものにまとめる
4	研究方法の検討①	文献研究、量的分析、計量的分析、質的分析等の研究方法について学ぶ。また、研究倫理についても理解する。	研究目的や研究方法を検討し、主題分の内容を充実させる
5	研究方法の検討②	研究の目的や研究方法を検討したうえで発表を行い、それを踏まえてディスカッションを行う。	ディスカッションでの指摘や意見を踏まえて内容の再検討を行う
6	参考・引用文献について	引用の必要性や引用の種類と方法、出典の示し方を学ぶ。同時に参考文献についても学ぶ。	レポートや論文のルールについてまとめる
7	アウトラインの作成	論文の骨組みを考えアウトラインを作成する	アウトラインを完成させる
8	論文の構成①	論文の構成(序論・本論・結論)と、それぞれに記述すべき内容について学ぶ	論文の構成についてまとめておく
9	論文の構成②	アウトラインの作成、論文の構成①の内容をもとに、自身が執筆する卒業論文の構成を考える。	卒業論文の目次とスケジュールを作成する
10	研究計画書の作成	卒業論文の題名と目次を確定させ、完成までのスケジュールを立てて発表する。発表の内容を受けてディスカッションを行い情報交換する。	卒業論文の構成を検討するスケジュールを再調整する
11	卒業論文の執筆①	目次とアウトラインを確定して発表する。発表の内容を踏まえて意見交換を行う。	序論を執筆する
12	卒業論文の執筆②	「第1章」を執筆し発表の準備を行う。参考・引用文献のリストを作成しておく	本論の執筆を進める
13	卒業論文の執筆③	執筆した「第1章」の発表を行い、それをもとにディスカッションを行う。	本論の執筆を進める
14	卒業論文の執筆④	本論の進捗状況についてまとめたものを発表し、それをもとにディスカッションを行う。	本論の執筆を進める
15	まとめ	専門演習を振り返り来年度取り組むべきことや目標を明らかにしたうえでスケジュールを作成する	来年度のスケジュールを立てる

授業科目(ナンバリング)	専門演習 B(DA302)			担当教員	浦 秀美		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習は卒業研究(4年次開講科目)に続いていく科目である。演習を通して自分自身で考える力・自分自身で考えをまとめる力を獲得することを目的とする。</p> <p>福祉分野、特に、介護や保育等を中心とした「ケア」を取り扱い、関連する問題や課題を中心に、文献を読み込み、まとめる。そして、専門演習 A で決定した卒業論文のテーマに沿って論文の章立てを行い、題目を決定する。また、専門演習 A に引き続き、論文の書き方についても学びを深める。</p> <p>本演習を受講することで、本学のディプロマポリシーでも示されている、他の人の意見を傾聴するとともに自分の考えを明確にした上で、活発に意見を交換し、相互理解を図ることができるようになることもねらいとする。</p>							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> 専門演習 A で絞り込んだ関心事について、図書館やデータベースを使用し情報収集ができる インターネットを活用して情報収集ができる 収集した文献を読み、内容を分析できる 専門演習 A で絞り込んだ関心事に関連した文献をリスト化できる 					レジュメ作成	20%
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身が関心を持つ福祉課題と解決策を他の学生に伝えることができる 他の学生が関心を持つ福祉課題にも関心を持ち、議論参加できる 					レポート 授業での発表・議論	40% 10%
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身や他の受講者が関心ある福祉課題について、テーマを設定し、図書館やデータベースを用いた収集資料や具体例と関連づけて説明し、協働して組み立てることができる 					授業での発表・議論 レジュメ作成	20% 10%
多様性理解力							
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> 授業での発表・議論：聴き手にも分かりやすい表現や内容であるか、聴き手に伝わりやすいプレゼンであるかについて、適宜確認し評価する。各自へのフィードバックも口頭や提出レジュメに対してコメントする (30%) レジュメ：議論のためのレジュメ作成、指示された文字数、体裁を守って作成できたかによって評価する (30%) レポート：授業内容や教科書の内容を理解し、自分の言葉で説明できているか確認し評価する。返却時に内容をフィードバックする (40%) 							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> 前半は、受講学生自身が興味ある分野についての先行研究を集め、読み込み、要約しながら理解を深めていく 後半は、卒業論文のテーマ設定を確認したうえで、執筆に着手する(題目決定・章立ての検討) <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
教科書：なし 参考書：なし 指定図書：小澤勲(2006)『ケアってなんだろう』医学書院							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>課題の提出期限を厳守し、スケジュールに沿った真摯な取り組みを期待します。また、他者との関わりを重視するため、他者と協働して物事に取り組み課題に取り組むことや報告・連絡・相談を密に行うことも求めます。</p> <p>授業での発表や議論を円滑に行うためには、授業外でもレジュメ作成やテーマに関する調べものなどが多くなるため、授業外での学修を熱心に取り組むことができ、自主的な積極的な姿勢で物事に取り組んで欲しいです。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	前期を振り返り、後期のスケジュールを確定する 個別面談	(予習)前期で未達成なものを確認し、後期スケジュールを検討する (復習)後期取り組むことを明らかにする
2	先行研究①	先行研究をレビューするための方法を確認し、文献収集を始める	(復習)収集した先行研究をまとめる
3	先行研究②	前回到続き先行研究をレビューするための方法を確認し、文献収集に取り組む	(復習)主題文を推敲し、内容を充実させる
4	研究方法の検討	調査研究、質的分析、文献研究について学ぶ。また、研究倫理についても学び理解する	(復習)研究目的、研究方法を検討し、主題文の内容を充実させ発表準備を始める
5	参考文献・引用文献について	参考文献・引用文献についての必要性や種類、方法、出典の示し方を学ぶ	(予習)論文のルール説明の準備を行う
6	研究方法の検討	研究目的、研究方法を検討した上で発表し、ディスカッションを行う	(予習)研究目的・方法に書くべき内容を明らかにする (復習)学んだことを論文作成に活かす
7	アウトラインを作成する	論文の骨組みであるアウトラインを検討、作成する	(復習)アウトラインを完成させる、卒業論文の題目検討を始める
8	論文の構成	論文の構成(序論、本論、結論)とそれぞれに書くべきことを学ぶ	(復習)卒論題目決定
9	卒業論文の構成	アウトライン、論文の構成をもとに、卒業論文を構成立てる	(予習)論文目次とスケジュールを作成し発表の準備
10	卒業論文作成計画を立てる	卒業論文の題名、目次を確定させ、期限までの完成に向けたスケジュールを立て、発表する。ディスカッションを通して検証する	(予習)これからのスケジュールを明確にする (復習)論文構成を検討し、スケジュールを再調整する
11	卒業論文執筆①	目次を発表し、アウトラインを確定する	(予習)序論を執筆する
12	卒業論文執筆②	「第1章」のアウトラインと進捗状況を発表する。引用文献リストを作成する	(予習)本論の執筆 (復習)引用文献リストの作成を続ける
13	卒業論文執筆③	「第2章」のアウトラインと進捗状況を発表する。引用文献リストを作成する	(予習)本論の執筆 (復習)引用文献リストを追加する
14	卒業論文執筆④	本論の進捗状況を発表する	(予習)本論の執筆を進める (復習)意見や助言を論文に反映させる
15	まとめ	専門演習 AB を振り返り、来年度取り組むべきことを明らかにしながら四年次に向けたスケジュールリングを行う	(予習)四年次スケジュールを整理する (復習)振り返りシートによる評価

授業科目(ナンバリング)	専門演習 B (DA302)			担当教員	丸山 貴志		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習は、専門演習 A で学んだ成果をもとに 4 年時の卒業研究のテーマについてさらに知識を深め、卒業研究に向けた準備として、文献検索、文献レビューを行う力を養う。卒業研究論文完成までの過程を念頭に置き、研究計画立案に向けた能力を身につける。実際の授業では、専門演習 A で学修した基礎知識をもとに研究テーマに関する知識と理解をさらに深めていく。グループディスカッション、プレゼンテーションを授業内に用いて、本学科のディプロマ・ポリシーに挙げられている「コミュニケーション力」「協働・課題解決力」を高める。							④⑤⑥⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	精神保健福祉分野における医療連携についての課題を整理し、情報収集を行い、その課題を分析したうえで要点をまとめることができる。				課題レポート	20%	
コミュニケーション力	自分の研究テーマとして検討している内容を整理し、他者に的確に伝え意見を聞き入れて互いにディスカッションできる。				ディスカッション グループ発表	25% 25%	
協働・課題解決力	テーマに沿ってディスカッションした内容から浮かび上がってきた課題についてグループで解決策を導き出すことができる。				資料作成 課題レポート	15% 15%	
多様性理解力							
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
課題レポートの提出とその内容についての評価 (35%)。テーマに沿ってまとめた発表用の資料作成 (15%)。グループディスカッションとグループ発表がテーマに沿って的確に行われているかを評価する (50%)。授業への出席状況、授業態度も成績に反映させる。課題レポートについては、次回の授業内でフィードバックを行う。							
授業の概要							
本演習はグループディスカッション、資料作成、発表を中心とした授業を展開していく。これまで習得してきた専門分野の知識をさらに深め、各自の研究テーマに沿った先行研究の検索、文献を集めレポートとレジュメ作成を行う。作成した資料をもとに各自、内容を発表し、ディスカッションする。 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。							
教科書・参考書							
教科書：戸田山和久 (2012)「新版論文の教室」NHK 出版 参考書：必要に応じて適宜紹介する。 指定図書：戸田山和久 (2012)「新版論文の教室」NHK 出版							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習では、精神保健福祉の分野から「ソーシャルワーク」や「医療連携」をテーマに、卒業研究に向けた具体的な知識とスキルを習得することを目的としている。そのため、授業外では特にその分野に興味、関心を持ち、日ごろから情報収集を行うことを期待する。授業内では、主体的かつ積極的に授業に参加することで、卒業研究に向けた知識習得を意識するとともに、向上心を持って授業に臨んでほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	本演習の内容、進め方の確認。前期までに各自でまとめたテーマを整理する。	予習：シラバスを確認。 復習：授業を振り返り内容把握を行う。
2	前期振り返り	前期までの各自でまとめたテーマをもとに、今後の授業の進め方について検討する。	予習：資料整理しておく。 復習：予習と同じ。
3	先行研究文献検索①	研究テーマを想定して各自興味を持っている内容について意見交換を行う。	予習：資料整理しておく。 復習：授業の振り返りを行う。
4	先行研究文献検索②	各自興味を持っている内容、課題に思っている内容についてまとめる。	予習：テーマを検討しておく。 復習：テーマをまとめる。
5	先行研究文献検索③	まとめた項目の先行研究を検索する。	予習：文献をまとめておく。 復習：授業の振り返りを行う。
6	ジャーナルクラブ①	各自興味を持った文献についてまとめてレジюмеを作成する。	予習：文献をまとめておく。 復習：発表準備。
7	ジャーナルクラブ②	各自興味を持った文献についてまとめてレジюмеを作成し、発表を行う。	予習：発表準備 復習：予習と同じ
8	ジャーナルクラブ③	各自興味を持った文献についてまとめてレジюмеを作成し、発表を行う。	予習：発表準備 復習：授業を振り返る。
9	先行研究文献レビュー①	研究レビューの重要性、取り上げる文献の決定方法について学ぶ。	予習：テーマを検討しておく。 復習：テーマをまとめる。
10	先行研究文献レビュー②	研究レビューのまとめ方、執筆時に注意すべき点について検討しディスカッションを行う。	予習：資料整理しておく。 復習：授業を振り返る。
11	先行研究文献レビュー③	まとめた研究レビューについて発表を行う。	予習：発表準備。 復習：他者の発表を振り返る。
12	研究計画立案①	これまでの学修をもとに、各自の研究テーマについて何を明らかにするのかをまとめて発表する。	予習：発表準備。 復習：授業を振り返る。
13	研究計画立案②	これまでの学修をもとに、研究で何を明らかにするのかをまとめ研究計画を立てる。	予習：資料整理しておく。 復習：資料修正を行う。
14	研究計画作成と発表	立てた研究計画を発表し、ディスカッションを行う。	予習：発表準備。 復習：研究計画の修正。
15	全体の振り返り	これまでの全体の振り返りを行い、次年度の卒業研究に向けた準備を行う。	予習：論文概要の検討。 復習：研究計画の修正

授業科目(ナンバリング)	専門演習 B (DA302)			担当教員	大町いづみ		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習では、研究の意義と目的を理解したうえで、次年度の卒業論文作成に向けて、研究テーマの設定から論文執筆に至る研究プロセスに対する理解を深め、各自の研究テーマを明確にすることを目指す。本演習では、全世代型地域包括ケアシステム構築に向け「共生」と「予防」をテーマとして地域で生活する人々の生活上の課題について洞察することをディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション等の参加型学習を通して養う。</p> <p>後期においては、文献レビューを通じた研究テーマに関する情報を整理し、研究計画書の作成に取り組む。</p>							④⑤⑦⑩⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	テーマに関する先行研究を検索し研究内容についてレジюмеにまとめて報告することができる。自分の考えを論理的な文章で表現できる。				授業への参加度 課題レポート	10% 15%	
コミュニケーション力	研究テーマに関して、論理的に発表することができる。テーマや課題に関する議論に積極的に参加でき、自分の考えを文章や口頭で表現することができる。				発言内容 ディスカッションへの貢献度	45%	
協働・課題解決力	テーマに関する課題について他のメンバーと協力・協働しながら課題解決に向けて取り組むことができる。				授業への参加度・ 発言 課題レポート	15% 15%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>発言内容・ディスカッションへの貢献度（45%）、卒論研究に向けて課された課題レポートの内容と論理性（30%）、主体的な授業への参加度（25%）について総合的に評価する。提出された課題や議論内容などに対しては、授業内にフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>各自で設定した研究テーマに沿って、研究の意義、目的、研究方法など、具体的に研究をデザインできるように個人ワークやディスカッションを通して学ぶ。また、基礎的な統計の知識、研究評価方法についても理解できるようにするが、各個人のペースに合わせながら進めていく。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：指定しない 参考書：必要に応じて適宜紹介する 推薦図書：西村克己（2005）「論理的な考え方が面白いほど身につく本(知りたいことがすぐわかる)」中経出版.</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習においては、地域での「共生」「予防」をテーマとした人々の生活上の課題についての研究を進めるための考え方・知識・技術・態度を学ぶことを目的としているが、必ずしも、上記テーマでなくとも、課題解決に向けた基本的な研究方法について理解し、積極的に学びを深めたい学生の履修を希望する。</p> <p>地域での保健・医療・福祉実践に関心を持ち、ボランティア活動や研修に積極的に参加し、地域社会、利用者理解を深め、研究と実践を結び付け、地域に貢献することを意識しながら取り組んでもらいたい。</p> <p>そのために、常に、社会に目を向け、大きな視野で物事を捉え、課題意識を持って自ら行動できるように、積極的に学びを深めてほしい。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	前期までの進捗状況を振り返り、後期の予定、内容、進め方について確認する。	予習：前期までの進捗状況を見直しておく 復習：進捗に対する計画を修正する
2	先行研究検索と研究内容の検討①	研究テーマに関する先行研究を調べ自分の研究内容を検討する（何が明らかになっていないか）。担当を決め発表し、全員で意見交換をする。	予習：報告をするための準備を行う。 復習：意見交換内容をまとめておく。
3	先行研究検索と研究内容の検討②	研究テーマに関する先行研究を調べ自分の研究内容を検討する（何が明らかになっていないか）。担当を決め発表し、全員で意見交換をする。	予習：報告をするための準備を行う。 復習：意見交換内容をまとめておく。
4	先行研究の検索と研究内容の検討③	研究テーマに関する先行研究を調べ自分の研究内容を検討する（何が明らかになっていないか）。担当を決め発表し、全員で意見交換をする。	予習：報告をするための準備を行う。 復習：意見交換内容をまとめておく。
5	研究内容の明確化	各自の研究テーマに沿った先行研究で検討した結果から研究内容について明確にしたい点について各自発表する。※課題レポートの作成	予習：報告をするための準備を行う。 復習：意見交換内容をまとめておく 課題レポートを作成する
6	研究デザインの明確化①	各自の研究デザイン、研究概念図を検討し、発表する（担当者）。意見交換を行う。	予習：報告をするための準備を行う。 復習：意見交換内容をまとめておく。
7	研究デザインの明確化②	各自の研究デザイン、研究概念図を検討し、発表する（担当者）。意見交換を行う。	予習：報告をするための準備を行う。 復習：意見交換内容をまとめておく。
8	研究デザインの明確化③	各自の研究デザイン、研究概念図を検討し、発表する（担当者）。意見交換を行う。	予習：報告をするための準備を行う。 復習：意見交換内容をまとめておく。
9	研究の分析方法	研究の分析方法（評価方法）について学ぶ。量的研究における分析方法について事例を用いて学ぶ。基礎的な統計について学ぶ。	予習：提示する文献を読んでおく。 復習：講義後、再度文献を読み整理しておく。
10	研究の分析方法	研究の分析方法（評価方法）について学ぶ。量的研究における分析方法について事例を用いて学ぶ。基礎的な統計について学ぶ。	予習：提示する文献を読んでおく。 復習：講義後、再度文献を読み整理しておく。
11	研究の分析方法	研究の分析方法（評価方法）について学ぶ。質的研究における分析方法について事例を用いて学ぶ。	予習：提示する文献を読んでおく。 復習：講義後、再度文献を読み整理しておく。
12	研究計画書の作成①	各自の研究デザインに沿った研究計画書（研究背景、目的、方法まで）を作成し、発表する（担当者）。意見交換を行う。	予習：報告するための準備を行う。 復習：意見交換内容をまとめておく。
13	研究計画書の作成②	各自の研究デザインに沿った研究計画書（研究背景、目的、方法まで）を作成し、発表する（担当者）。意見交換を行う。	予習：報告をするための準備を行う。 復習：意見交換内容をまとめておく。
14	研究計画書の作成③	各自の研究デザインに沿った研究計画書（研究背景、目的、方法まで）を作成し、発表する（担当者）。意見交換を行う。 ※課題レポート（意見を踏まえた研究計画書）の作成	予習：報告をするための準備を行う。 復習：意見交換内容をまとめておく。 課題レポートを作成する。
15	全体のまとめ	後期の学習内容の振り返りを行い、テーマに沿った研究デザインを確認する。 次年度の課題を明確にする。	予習：後期の学習内容を整理する 復習：次年度のスケジュールを再考する

授業科目(ナンバリング)	専門演習 B (DA302)			担当教員	大島 啓		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>専門演習は A・B は、4 年次開講の「卒業研究」(原則持ち上がり)へと発展していく科目である。本演習では、関心のある社会問題、社会福祉のテーマを選択し、それに関する文献を丁寧に解説することを通じて、現代日本社会が抱える様々な(福祉)問題の全体像を把握・整理し、資料の作成やプレゼンテーション、ディスカッション等を通じて、社会の課題に対する思考力、判断力、表現力を涵養することを目標とする。この演習はとりわけ、地域社会や国際社会の多様な課題に対応しうる理論的知識を深める点に特色がある。また卒業論文作成に向け、各自のテーマ設定や論文の書き方についても学ぶ。卒論のテーマ設定については、各自の興味に応じた内容を検討し、絞り込んでいく。</p>							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	現代日本社会が抱える様々な(福祉)問題に関する情報を収集し、それを分析して自己や社会の成長に役立つ知見を指摘できる。				・資料作成	10%	
コミュニケーション力	ホスピタリティの精神に基づいて他の人の意見を傾聴するとともに、文献や資料を正確に読解し、テーマを発見・深めることを通じて、自分の考えを明確にした上で、相互理解を図る議論に参加できる。				・授業での発表・グループ討議など授業への参加	70%	
協働・課題解決力	資料の作成・プレゼンテーションのスキルアップを通じて、課題を的確に把握し、他の人と協力して課題解決に向けた方策を立案し、実行する営みに寄与できる。				・課題提示に対するプレゼンテーション	20%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業への出席・参加は当然の評価要件とし、資料の作成(評価比率10%)、プレゼンテーション(評価比率20%)、ディスカッション(評価比率70%)などによって総合的に評価する。資料作成については問題に関する情報を収集し、問題解決の糸口を発見できたかどうかを評価する。プレゼンテーションについては、他人の意見を傾聴し自分の考えを明確にした上で、相互理解を促進できたかどうかを評価する。ディスカッションについては、資料の作成・プレゼンテーションのスキルアップを通じて、課題を的確に把握し、他人と協力して課題解決に向けた立案ができるかどうかを評価する。なお発表内容に関しては、授業内にコメントの形でフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>授業の進め方は、最初にオリエンテーションを施し、前半は、ゼミ全員で合議の上決定した文献を各自分担の形で発表する。後半は、各自関心があるテーマについて文献を報告し、その過程を通じて、卒論形成の基礎となる学問的作法(問題意識の形成やテーマの絞り方、文献収集や文献の読み込み方、ノートの取り方、文章表現など)を学ぶ。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない 参考書：『福祉系学生のための 改訂レポート&卒論の書き方』(2005) 川村匡由・川村岳人 中央法規 ※適宜参照する 指定図書：2021 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験過去問一問一答+α 共通科目編</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>卒業論文につながる演習なので、主体的に取り組むことを期待する。取り組みへの積極的態様の有無によって、卒論の出来に差が出てくることが予想される。既存の知識を習得するのではなく、自分で社会や福祉の問題を考えるための貴重な時間なので、資料作成や発表の準備等に積極的に取り組むことを通じて、有意義に過ごしてもらいたい。授業の欠席は、できる限り事前に連絡すること。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	後期の予定や内容、進め方などスケジュールを確認する	年間スケジュールを確認する
2	論文作成の基礎①	『レポート&卒論の書き方』を通じて、論文とはそもそも何か、論文のテーマ設定、構成の仕方について学ぶ	予習: 参考書の指定部分を読んでくる
3	論文作成の基礎②	『レポート&卒論の書き方』を通じて、引用、脚注のつけ方など、論文作成の基本的な作法について学ぶ	予習: 参考書の指定部分を読んでくる
4	調査研究と文献研究①	論文購読を通じて、調査研究の作成方法と留意点を学ぶ	予習: 提示された論文に目を通しておく
5	調査研究と文献研究②	論文購読を通じて、文献研究の作成方法と留意点を学ぶ	予習: 提示された論文に目を通しておく
6	卒業論文のテーマ検討①	卒業論文のテーマについて、各自が計画した内容を発表し、全員でディスカッション	予習: 先行研究の講読 復習: テーマの検証
7	卒業論文のテーマ検討②	卒業論文のテーマについて、各自が計画した内容を発表し、全員でディスカッション	予習: 先行研究の講読 復習: テーマの検証
8	卒業論文のテーマ検討③	卒業論文のテーマについて、各自が計画した内容を発表し、全員でディスカッション	予習: 先行研究の講読 復習: テーマの検証
9	卒業論文のテーマ検討④	卒業論文のテーマについて、各自が計画した内容を発表し、全員でディスカッション	予習: 先行研究の講読 復習: テーマの検証
10	卒業論文のテーマ決定	各自、卒業論文のテーマを確定する。合わせて章立てや執筆スケジュール、題目届も作成する	予習: 卒論のテーマや章立てについてまとめる
11	卒業論文作成①	各自のテーマ設定に従い、論文の全体像やグランドデザインを示す(序章と一章に該当)。	予習: 卒論グランドデザインの作成 復習: 議論をもとに修正
12	卒業論文作成②	各自のテーマ設定に従い、論文の全体像やグランドデザインを示す(序章と一章に該当)。	予習: 卒論グランドデザインの作成 復習: 議論をもとに修正
13	卒業論文作成③	各自のテーマ設定に従い、論文の全体像やグランドデザインを示す(序章と一章に該当)。	予習: 卒論グランドデザインの作成 復習: 議論をもとに修正
14	卒業論文作成④	各自のテーマ設定に従い、論文の全体像やグランドデザインを示す(序章と一章に該当)。	予習: 卒論グランドデザインの作成 復習: 議論をもとに修正
15	夏休みの課題と指導	夏休み中に卒論を暫定的に完成させるよう指導	夏休み期間中の卒論執筆計画の作成

授業科目(ナンバリング)	専門演習 B (DA302)			担当教員	柳 智盛		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習は前期科目「専門演習 A」から継続して行なわれる演習である。引き続き主に障害児・者についての理解と援助のための実践力を身につけたことを学問として卒論研究につなげていくことを目標とする。さらに、専門演習 A で得られた知識・経験を踏まえ、各自の卒論研究に向けたテーマ設定及び研究計画の作成を行う。そのため、資料・文献の検索方法、論文作成の基礎などを学び、各自のテーマについてのプレゼンテーションを行い、それについてディスカッションすることで、卒論研究の基礎的な土台を固めていく。こうした過程を経て、本学のディプロマ・ポリシーにある「人間尊重」を基本理念に即した問題解決のための思考・判断をすることができるようになることを目標とする。</p>							⑤、⑦、⑩、⑪、⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	障害児・者に対する支援に関する文献と支援活動での経験を通して、障害児・者への支援に対して指摘できる。				・授業への参加度 ・課題レポート	10% 10%	
コミュニケーション力	障害者に対する理解と支援について、実体験やディスカッションを通して、卒論研究テーマに沿った自分の考えを表現することができる。				・発言内容、独自性 ・ディスカッションへの参加、発言	25% 25%	
協働・課題解決力	障害児・者に対する支援に関する文献と支援活動での経験を通して得られた知見から、障害児・者への支援に寄与することができる。				・授業への参加度 ・課題レポート	10% 20%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>プレゼンテーション及びディスカッションへの参加姿勢や発言方法・発言内容の適正さ・独自性 (50%)、卒論研究に向けて課された課題レポート提出 (30%)、授業及び支援活動への参加度 (20%) について総合評価する。なお、課題レポートについては、次回の授業で内容をフィードバックする。</p>							
授業の概要							
<p>指定文献を各回の担当者が A4 用紙 2 枚程度にまとめ、発表及び質疑応答のディスカッション形式で進めて各発表について参加者全体での理解を深める。適宜、必要に応じて実際にワークの体験なども取り入れていく。 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない。 参考書：杉山登志郎著 (2007)「発達障害の子どもたち」講談社現代新書 指定図書：浦上昌則・脇田貴文著 (2008)『心理学・社会学科研究のための調査系論文の読み方』東京図書</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習において、前期科目「専門演習 A」と同様、主に発達障害への理解を深めるため文献や各メディアに関心を向けることや、ボランティア活動への参加を積極的に行い実体験としての関わり経験を積んでおくこと。その経験を理論的に関連づけて各自の卒業研究を考えていくこと。また、卒論研究テーマにおいては、必ずしも発達障害に限定しなくて構わないが、ボランティア活動で得られた経験を踏まえて卒論研究を進められることを意識してボランティア活動への参加を上記の評価での支援活動として位置付ける。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	授業内容、進め方、発表の形式などについて説明し、発表順を決める。	当日の振り返りを行い、各自の発表資料作成に取り組む。
2	文献発表・ディスカッション①	発表者による、関心のあるテーマについての発表と質疑応答を行う。	予：関心のある文献を予約してこよう。 復：内容を振り返る。
3	文献発表・ディスカッション②	発表者による、関心のあるテーマについての発表と質疑応答を行う。	予：関心のある文献を予約してこよう。 復：内容を振り返る。
4	文献発表・ディスカッション③	発表者による、関心のあるテーマについての発表と質疑応答を行う。	予：関心のある文献を予約してこよう。 復：内容を振り返る。
5	中間まとめⅠ	各自1回目の発表内容を整理し、関心のあるテーマの文献収集やまとめを再度検討する。	予：各自の発表内容を整理する。 復：新たな文献収集に取り組む。
6	文献発表・ディスカッション④	発表者による、関心のあるテーマについての発表と質疑応答を行う。	予：関心のある文献を予約してこよう。 復：内容を振り返る。
7	文献発表・ディスカッション⑤	発表者による、関心のあるテーマについての発表と質疑応答を行う。	予：関心のある文献を予約してこよう。 復：内容を振り返る。
8	文献発表・ディスカッション⑥	発表者による、関心のあるテーマについての発表と質疑応答を行う。	予：関心のある文献を予約してこよう。 復：内容を振り返る。
9	文献発表・ディスカッション⑦	発表者による、関心のあるテーマについての発表と質疑応答を行う。	予：関心のある文献を予約してこよう。 復：内容を振り返る。
10	中間まとめⅡ	各自2回目の発表内容を整理し、関心のあるテーマの文献収集やまとめを再度検討する。	予：各自の発表内容を整理する。 復：新たな文献収集に取り組む。
11	障害児者への支援活動①	障害児者への支援活動に参加し、その振り返りの課題レポートをプレゼンテーション及びディスカッションを行う。	予：プレゼンテーションの準備をする。 復：内容を振り返る。
12	障害児者への支援活動②	障害児者への支援活動に参加し、その振り返りの課題レポートをプレゼンテーション及びディスカッションを行う。	予：プレゼンテーションの準備をする。 復：内容を振り返る。
13	卒業研究のテーマ決め①	各自の卒業研究のテーマについて最終発表を行い、卒業研究テーマの絞込みを行う。	予：具体的なテーマを考えてこよう。 復：内容を振り返る。
14	卒業研究のテーマ決め②	各自の卒業研究のテーマについて最終発表を行い、卒業研究テーマの絞込みを行う。	予：具体的なテーマを考えてこよう。 復：内容を振り返る。
15	次年度の準備	卒業研究に向けた次年度の学習について説明し、次年度の見通しをつける。	予：全体を振り返る。 復：来年度からの見通しを考える。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 B (DA302)			担当教員	梅野 潤子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習では、4年次の卒業論文作成を見据え、研究テーマの設定から論文執筆に至る研究過程の全体像に対する理解を深めた上で、各自の研究テーマを設定することを目指す。本演習においては、児童福祉・児童ソーシャルワークに焦点を当て、子どもに関する社会問題・生活問題を洞察し、批判的に検討し、自分の意見を文章によって表現する訓練を行う。そのために必要とされる思考力・判断力・表現力を、ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション等の参加型学習を通して養う。</p> <p>後期においては、文献レビューを通じた研究テーマに関する知識の整理と、事例研究を中心に取り組む。</p>							④⑤⑦⑩⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	自身の研究テーマに関連する研究動向を理解し、説明することができる。				小レポート		5%
情報収集、分析力	児童福祉・児童ソーシャルワークに関する文献レビューと事例研究を通じて、児童福祉実践の現状と課題を整理することができる。				授業への参加度 課題レポート		10% 10%
コミュニケーション力	自身の研究テーマに関して、研究動向の報告やディスカッションを通じて、自分の考えを文章や口頭で表現することができる。				発言内容		20%
					ディスカッションへの貢献度		20%
協働・課題解決力	児童福祉・児童ソーシャルワークに関する文献レビューや事例研究を統合し、実践をよりよくするための課題に取り組み、提言することができる。				授業への参加度 課題レポート		15% 15%
多様性理解力	子どもが置かれている社会状況や政策及び実践の展開過程について理解することができる。				小レポート		5%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業中の発言内容・ディスカッションへの貢献度（40%）、卒論研究に向けて課された小レポート・課題レポートの書き方や内容の適切さ（35%）、主体的な発言や取組等の授業への参加度（25%）について総合的に評価する。授業中の私語や遅刻・欠席、課題の提出遅れ等は、減点対象となるため注意されたい。小レポート・課題レポートについては、次回の授業において内容をフィードバックする。</p>							
授業の概要							
<p>前期に各自で設定した研究テーマに関する理解を深めるため、研究動向の把握、年表の作成及び事例研究を行う。教科書を用いて授業を展開し、個人ワークやグループディスカッション等参加型ワークを中心に進める。研究動向の分析結果、年表、事例分析の結果については、各回の担当者が資料を作成した上で報告し、質疑応答やディスカッションを行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：梅野潤子（2013）『研究ってなんだろうーはじめて取り組むあなたのための論文作成ノートー』高学出版。 参考書：必要に応じて適宜紹介する。 指定図書：ピーター・フランクル（1997）『ピーター流らくらく学習術』岩波書店。 池上彰（2007）『ニュースの読み方使い方』新潮社。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習においては、児童福祉・児童ソーシャルワーク研究を進めるための考え方・知識・技術を学ぶことを目的としている。そのため、子どもに関する社会問題・生活問題に対する理解を深めるために、日頃から文献やニュース等の情報に関心をもち、情報収集に努めることが期待される。</p> <p>また、児童福祉実践に関心をもち、ボランティア活動に積極的に参加する等、現場における実践経験を積むことも重視する。児童福祉・児童ソーシャルワーク研究は、現場の実践をよりよくするために行われる社会的営みであることを十分理解した上で、受講生には実践と研究を結びつけることを意識しながら取り組んでもらいたい。</p> <p>なお、本演習では児童福祉・児童ソーシャルワークにおける研究方法を学ぶため、これらの分野を専門的に学ぶことを希望する学生の履修を期待する。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	本演習の目的と授業計画の説明を行う。 夏季休暇中に文献レビューした結果と、現時点での研究テーマについて発表する。	予習：シラバスを熟読し、発表内容を準備する。 復習：研究テーマに関する文献検索を行う。
2	先行研究の分析①	研究動向を把握する方法について学ぶ。 研究テーマに関する先行研究の文献リストを各自で作成する。	予習：教科書 pp. 61-62 を読み、先行研究の分析方法を理解する。 復習：自身の文献リストを作成する。
3	先行研究の分析②	作成した文献リストを、発表年ごとに分析し、研究動向を探る。	予習：教科書 pp. 61-62 を読み、先行研究の分析方法を理解する。 復習：発表年ごとの分析を完成させる。
4	先行研究の分析③	作成した文献リストを、テーマごとに分析し、研究動向を探る。	予習：教科書 1 章 3 節 1, 2 を読む。 復習：テーマごとの分析を完成させる。
5	分析結果の報告	受講生同士で、各自の研究テーマに沿った先行研究の動向を報告し合う。 ディスカッションを行い、それぞれが把握した児童福祉分野の研究動向を統合する。※小レポート提示	予習：授業内での報告準備を行う。 復習：小レポートを作成する。
6	研究テーマに関する年表作成①	各自の研究テーマに関する年代ごとの社会状況を調べ、年表を作成する。	予習：教科書 p. 63 を読み、年表作成のための文献を調べ入手する。 復習：年表を作成する。
7	研究テーマに関する年表作成②	各自の研究テーマに関する年代ごとの政策の状況を調べ、年表を作成する。	予習：教科書 p. 63 を読み、年表作成のための文献を調べ入手する。 復習：年表を作成する。
8	研究テーマに関する年表作成③	各自の研究テーマに関する年代ごとの実践の状況を調べ、年表を作成する。	予習：教科書 p. 63 を読み、年表作成のための文献を調べ入手する。 復習：年表を完成させる。
9	作成した年表の報告	各自が作成した年表をもとに、研究テーマに関する歴史的経緯について報告する。 ディスカッションによってそれぞれの年表の内容に対する相互理解を深める。 ※小レポートの提示	予習：授業内での報告準備を行う。 復習：小レポートを作成する。
10	事例研究の方法	事例研究の方法について解説する。 各自の実習やボランティア活動等、実践経験を踏まえて検討する事例を選定する。	予習：教科書 2 章 5 節を読む。 復習：選定した事例の情報（日誌やメモ等の実践記録）を準備する。
11	事例研究①	各自が選定した事例の分析を行う。 分析結果を、マッピング技法を用いて記録する。	予習：事例の分析を行う。 復習：事例分析した記録を作成する。
12	事例研究②	各自が選定した事例の分析を行う。 分析結果を、マッピング技法を用いて記録する。	予習：事例の分析を行う。 復習：事例分析した記録を作成する。
13	事例研究③	受講生同士で、各自が事例分析した結果を報告し合い、ディスカッションをする。 ディスカッションを踏まえ、追加情報や分析・記録方法の修正を行う。	予習：事例の分析結果を報告するための準備を行う。 復習：事例分析の修正を行う。
14	事例研究④	受講生同士で、修正した事例の分析結果を報告し合い、ディスカッションをする。 事例から見える実践課題と、先行研究の動向や年表とを結び付けて理解する。※課題レポートの提示	予習：再度事例の報告をするための準備を行う。 復習：課題レポートを作成する。
15	後期のまとめ	後期の学習内容の振り返りを行い、現時点での研究テーマを確認する。 春季休暇中に読む文献リストを作成するとともに、ボランティア活動等実践に関与するための計画を立てる。	予習：研究テーマについて再考し、教科書 p. 52 に記入する。 復習：リストアップした文献を入手する。ボランティア活動等の準備を行う。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 B (DA302)			担当教員	脇野 幸太郎		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
前期Aでの成果を踏まえ、各自の卒業研究に向けたテーマ設定および研究計画の作成を行う。そのうえで、具体的な研究手法（資料・文献の検索方法、論文作成の基礎など）についての検討と、各自のテーマについての報告およびそれについてのディスカッションを行い、卒業研究への基礎固めを行う。							⑤⑥⑦⑧
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障の諸制度について説明できる。 ・基礎的な研究手法（文献検索、論文作成の基礎等）を身につけている。 				<ul style="list-style-type: none"> ・発表レジュメ（制度説明の的確性・正確性） ・議論での発言 		
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の見解をレジュメにまとめて報告することができる ・自分の見解を的確かつ論理的な文章で表現することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・発表レジュメ（自分の見解がまとめられているか） ・議論での発言 	10%	10%
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> ・あるテーマや課題に関する議論に積極的かつ適切に関与することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・議論での発言 	50%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> ・あるテーマや課題について、他のメンバーと協働しながら、その解決策を模索することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・議論での発言 	30%	
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の意見を傾聴し、それに基づく議論をすることができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・議論での発言 		
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>課題の準備・提出状況や内容（発表レジュメ）20%、およびゼミ内での議論での発言（80%）で評価する。提出された課題や議論の内容などに対しては、授業内でコメントをする形でフィードバックを行う。</p> <p>評価基準は長崎国際大学の成績評価基準に準拠する。</p>							
授業の概要							
<p>各自が関心を持ったテーマを持ち寄り、それについてまずは先行研究（文献）の整理とその発表、後半からはそれを踏まえた研究計画の作成とその発表を行う。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：授業時に指示する。</p> <p>参考書：教科書に同じ。</p> <p>指定図書：根岸・三輪・増田編『変わる福祉社会の論点（第3版）』（信山社・2021）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>前期Aと同様、「社会保障」をゼミの基盤に置くが、卒業研究のテーマは必ずしも社会保障に関したものでなくてもかまわない。また、高齢者、児童、障がい者、地域など、社会福祉のどの分野であってもかまわない。ただし、どのようなテーマを選ぶにしても、社会保障の制度理解は必ず必要となるので、そのことを理解し、積極的にゼミ運営にかかわってくれる人の参加を希望する。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	後期オリエンテーション	後期の予定や内容、進め方などについて確認する。	前期の初回に立てた2年間の予定を見直し、残りの期間の予定の修正案を考えておく。
2	論文作成の基礎①	論文とはどのようなものかについて、作文・感想文・レポートなどとの違いを確認しながら学ぶ。	予習：指定教科書(135～216ページ)を読んでおく。
3	論文作成の基礎②	論文のテーマ設定、構成の仕方などについて学ぶ。	予習：指定教科書(15～62ページ)を読んでおく。
4	論文作成の基礎③	論文における文献の引用方法(「引用」と「剽窃」「コピー」の相違など)、脚注のつけ方など、論文作成の基本的な作法について学ぶ。	予習：指定教科書(63～104ページ)を読んでおく。
5	先行研究の整理①	各自のテーマに沿って先行研究を整理、発表し、全員によるディスカッションを行う。	予習：先行研究の検索、講読 復習：議論をもとに検索した文献を再読
6	先行研究の整理②	各自のテーマに沿って先行研究を整理、発表し、全員によるディスカッションを行う。	予習：先行研究の検索、講読 復習：議論をもとに検索した文献を再読
7	卒業論文作成準備①	卒業研究の内容について、各自が計画した内容を発表し、全員でディスカッション	予習：卒業研究計画の作成 復習：議論をもとに計画の見直し
8	卒業論文作成準備②	卒業研究の内容について、各自が計画した内容を発表し、全員でディスカッション	予習：卒業研究計画の作成 復習：議論をもとに計画の見直し
9	卒業論文作成①	卒業研究計画をもとに、論文作成を進める。 それに関する進捗状況の発表と計画の見直しを行う。	予習：卒業研究計画にもとづく論文作成 復習：議論をもとに計画の見直し
10	卒業論文作成	卒業研究計画をもとに、論文作成を進める。 それに関する進捗状況の発表と計画の見直しを行う。	予習：卒業研究計画にもとづく論文作成 復習：議論をもとに計画の見直し
11	卒業論文作成	卒業研究計画をもとに、論文作成を進める。 それに関する進捗状況の発表と計画の見直しを行う。	予習：卒業研究計画にもとづく論文作成 復習：議論をもとに計画の見直し
12	卒業論文作成	卒業研究計画をもとに、論文作成を進める。 それに関する進捗状況の発表と計画の見直しを行う。	予習：卒業研究計画にもとづく論文作成 復習：議論をもとに計画の見直し
13	卒業論文作成	卒業研究計画をもとに、論文作成を進める。 それに関する進捗状況の発表と計画の見直しを行う。	予習：卒業研究計画にもとづく論文作成 復習：議論をもとに計画の見直し
14	卒業論文作成	卒業研究計画をもとに、論文作成を進める。 それに関する進捗状況の発表と計画の見直しを行う。	予習：卒業研究計画にもとづく論文作成 復習：議論をもとに計画の見直し
15	全体のまとめ	現時点での卒業研究作成の進捗状況を確認し、今後の課題の確認と計画の見直しを行う。	来年度のスケジュールを作成する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 B (DA302)			担当教員	妻 孝承		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この授業では、次年度の卒業研究に向けて、「ソーシャルワーク」および「高齢者福祉」を中心に研究の基礎を学びながら論文執筆に必要な能力を高めていくことをねらいとする。 授業の方法については、学生の興味・関心のある社会問題を中心に、文献検索・読書・資料作成・発表・ディスカッションを行っていく。なお、「専門演習」はA・Bと通年科目である。							⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	与えられた課題に対し、適切な方法にて情報収集を行うとともに、情報を十分に分析し、自分の考えを論理的にまとめることができる。				課題の達成度 研究中間報告	10% 10%	
コミュニケーション力	自分の意見、他者の意見を適切に交換させていきながら、互いに成長し合う関係を築くことができる。				課題の達成度 研究中間報告	25% 25%	
協働・課題解決力	与えられた課題に対し、メンバーと協働して適切な解決策を導き出すことができる。				課題の達成度 研究中間報告	15% 15%	
多様性理解力							
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
課題の達成度 (50%) : レポート課題 (Word : おおよそ A4 で 1~2 枚程度 : 7 回) にて評価を行う。 研究中間報告 (50%) : 研究中間報告として行う発表・ディスカッション (5 回) での発言内容・参加姿勢・貢献度を評価する。 フィードバック : 課題、研究中間報告に関するフィードバックは、授業中もしくはポートフォリオを活用し評価・解説する方法を用いる。							
授業の概要							
この授業のねらいは、「ソーシャルワーク」および「高齢者福祉」の実証的研究をベースに、研究の基礎を学びながら論文執筆に必要な能力を高めていくことである。そのため、学修者個々人が興味・関心を抱く社会問題について、情報を集め、分析し、発表やディスカッションを行いながら、互いに知見を広げて成長していけるような授業を展開していく。なお、授業以外にボランティア活動にも参加することを求める。 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。							
教科書・参考書							
教科書 : 特に指定しない (授業中に資料を配布する) 参考書 : 日本社会福祉学会『社会福祉学』、日本介護福祉学会『介護福祉学』 (論文の書き方理解等のために活用) 指定図書 : 高齢社会白書 (2022)『内閣府』							
授業外における学修及び学生に期待すること							
「専門演習」はA・Bと通年科目であり、かつ「卒業研究」につながっていくものであることから、先のことを見据え、遠慮や謙遜をせず、お互いに自由に活発な時間が過ごせるよう、「意欲」と「協調」をもって参加されることを期待する。また、ボランティア活動への積極的な参加を期待する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	講義計画の概要の紹介、学習方法（研究計画書・引用文献リストの作成の仕方、発表の仕方）に関する説明を行う。その他、ルーブリック評価を実施する。	復習：研究計画書の書き方の復習。
2	キャリアについて	キャリアセンターを訪問し、自分の将来について考える。また、卒論との関連性も探索する。	予習：就職についての質問を考える。 復習：振り返りを行う。
3	社会活動①	社会活動（ボランティア、見学）を通して、自分の関心テーマの理解を深める。	予習：活動の意味について調べる。 復習：振り返りシートを提出する。
4	研究計画書の作成	前回授業で説明された学習方法に沿った研究計画書を作成する。その他、個別面談を行う。	予習：研究計画書の作成。 復習：予習と同じ。
5	先行研究・文献レビュー①	作成した研究計画書の内容を踏まえて、先行研究・文献を見つけ、熟読し、要点をまとめる。	予習：先行研究・文献に関するレポート作成。 復習：予習と同じ
6	先行研究・文献レビュー①	前回と同様に、先行研究・文献を見つけ、熟読し、要点をまとめる。	予習：先行研究・文献に関するレポート作成。 復習：予習と同じ
7	研究中間報告①	先行研究・文献をまとめたレポートの発表を行い、その後、その内容に関するディスカッションを行う。	予習：発表準備。 復習：中間報告時で得た知見の整理。
8	先行研究・文献レビュー②	作成した研究計画書の内容を踏まえて、先行研究・文献を見つけ、熟読し、要点をまとめる。	予習：先行研究・文献に関するレポート作成。 復習：予習と同じ
9	先行研究・文献レビュー②	前回と同様に、先行研究・文献を見つけ、熟読し、要点をまとめる。	予習：先行研究・文献に関するレポート作成。 復習：予習と同じ
10	研究中間報告②	先行研究・文献をまとめたレポートの発表を行い、その後、その内容に関するディスカッションを行う。	予習：発表準備。 復習：中間報告時で得た知見の整理。
11	論文の書き方①	量的・質的研究の進み方。	予習：量的研究の進み方について調べてくる。 復習：量的研究の論文を読む。
12	研究倫理について	研究倫理について確認し、必要な書類を作成する。	予習：資料を読む。 復習：必要な書類を完成して来る。
13	卒論の作成①	論文体、フォント、形式などの基本的なルールについて確認し、論文執筆を行う（発表）。	予習：発表準備。 復習：章立てまで完成する。
14	卒論の作成②	各自のテーマに合わせて論文執筆を行う。（章立て～はじめにまで）	予習：先行研究・文献に関するレポート作成。 復習：予習と同じ
15	全体の振り返り	これまでまとめてきたレポートを振り返り、その知見と研究計画書を整理する。	復習：これまでのレポートの整理。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 B (DA302)			担当教員	野田 健		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この授業は、社会福祉学的視点から「ホスピタリティとは何か」という問いを持つことから始まり、地域社会に貢献しうる自己を確立するため、「福祉哲学」「相談援助」「社会貢献」を学修の柱に据え、福祉マインドの醸成を図ることをねらいとする。授業の方法については、本学のディプロマ・ポリシーにある「人間尊重」を基本理念に、自己研鑽を継続的に行う能力（ホスピタリティを構成する能力）を高めるため、各人の興味・関心のある社会問題を中心に、文献検索・読書・資料作成・発表・ディスカッションを行っていく。なお、「専門演習」はA・Bと通年科目であり、かつ「卒業研究」につながっていくものである。							⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	与えられた課題に対し、適切な方法にて情報収集を行うとともに、情報を十分に分析し、自分の考えを論理的にまとめることができる。				課題の達成度 研究中間報告	10% 10%	
コミュニケーション力	自分の意見、他者の意見を適切に交換させていながら、互いに成長し合う関係を築くことができる。				課題の達成度 研究中間報告	25% 25%	
協働・課題解決力	与えられた課題に対し、メンバーと協働して適切な解決策を導き出すことができる。				課題の達成度 研究中間報告	15% 15%	
多様性理解力							
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>課題の達成度（50%）：レポート課題（Word：おおよそA4で1～2枚程度：7回）にて評価を行う。</p> <p>研究中間報告（50%）：研究中間報告として行う発表・ディスカッション（5回）での発言内容・参加姿勢・貢献度を評価する。</p> <p>フィードバック：課題、研究中間報告に関するフィードバックは、授業中もしくはポートフォリオを活用し評価・解説する方法を用いる。</p>							
授業の概要							
<p>この授業のねらいは、「福祉哲学」「相談援助」「社会貢献」をベースに、福祉マインドを醸成していくことにある。そのため、学修者個々人が興味・関心を抱く社会問題について、情報を集め、分析し、発表やディスカッションを行いながら、互いに知見を広げて成長していけるような授業を展開していく。なお、授業以外にボランティア活動にも参加することを求める。なお、授業の案内や課題提示等はポートフォリオを活用する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：授業中に資料を配布する</p> <p>参考書：日本社会福祉学会『社会福祉学』、日本介護福祉学会『介護福祉学』（論文の書き方理解等のために活用）</p> <p>指定図書：厚生労働省編『厚生労働白書』日経印刷株式会社等の政府刊行物 ※発行年問わず</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>「専門演習」はA・Bと通年科目であり、かつ「卒業研究」につながっていくものであることから、先のことを見据え、遠慮や謙遜をせず、お互いに自由に活発な時間が過ごせるよう、「意欲」と「協調」をもって参加されることを期待する。また、ボランティア活動への積極的な参加を期待する。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	講義計画の概要の紹介、学習方法（研究計画書・引用文献リストの作成の仕方、発表の仕方）に関する説明を行う。その他、ルーブリック評価を実施する。	復習：研究計画書の書き方の復習。
2	研究計画書の立案① 研究計画書の作成	前回授業で説明された学習方法に沿った研究計画書を作成する。その他、個別面談を行う。《ポートフォリオによる課題提出①》	予習：研究計画書の作成。 復習：予習と同じ。
3	研究計画書の立案② 研究計画書の発表	研究計画書を発表し、その後、その内容に関するディスカッションを行う。《発表・ディスカッション①、ポートフォリオによる課題提出②》	予習：研究計画書の発表準備。 復習：研究計画書の修正。
4	先行研究・文献レビュー①-1	作成した研究計画書の内容を踏まえて、先行研究・文献を見つけ、熟読し、要点をまとめる。	予習：先行研究・文献に関するレポート作成。 復習：予習と同じ
5	先行研究・文献レビュー①-2	前回と同様に、先行研究・文献を見つけ、熟読し、要点をまとめる。《ポートフォリオによる課題提出③》	予習：先行研究・文献に関するレポート作成。 復習：予習と同じ
6	研究中間報告①	先行研究・文献をまとめたレポートの発表を行い、その後、その内容に関するディスカッションを行う。《発表・ディスカッション②》	予習：発表準備。 復習：中間報告時で得た知見の整理。
7	先行研究・文献レビュー②-1	作成した研究計画書の内容を踏まえて、先行研究・文献を見つけ、熟読し、要点をまとめる。	予習：先行研究・文献に関するレポート作成。 復習：予習と同じ
8	先行研究・文献レビュー②-2	前回と同様に、先行研究・文献を見つけ、熟読し、要点をまとめる。《ポートフォリオによる課題提出④》	予習：先行研究・文献に関するレポート作成。 復習：予習と同じ
9	研究中間報告②	先行研究・文献をまとめたレポートの発表を行い、その後、その内容に関するディスカッションを行う。《発表・ディスカッション③》	予習：発表準備。 復習：中間報告時で得た知見の整理。
10	先行研究・文献レビュー③-1	作成した研究計画書の内容を踏まえて、先行研究・文献を見つけ、熟読し、要点をまとめる。	予習：先行研究・文献に関するレポート作成。 復習：予習と同じ
11	先行研究・文献レビュー③-2	前回と同様に、先行研究・文献を見つけ、熟読し、要点をまとめる。《ポートフォリオによる課題提出⑤》	予習：先行研究・文献に関するレポート作成。 復習：予習と同じ
12	研究中間報告③	先行研究・文献をまとめたレポートの発表を行い、その後、その内容に関するディスカッションを行う。《発表・ディスカッション④》	予習：発表準備。 復習：中間報告時で得た知見の整理。
13	研究計画書の立案③ 研究計画書の修正	先行研究・文献レビューで得た知見を踏まえて、改めて研究計画書を作成する。《ポートフォリオによる課題提出⑥》	予習：発表準備。
14	研究計画書の立案④ 研究計画書の発表	研究計画書を発表し、その後、その内容に関するディスカッションを行う。《発表・ディスカッション⑤》	予習：研究計画書の発表準備。 復習：研究計画書の修正。
15	全体の振り返り	これまでまとめてきたレポートを振り返り、その知見と研究計画書を整理する。《ポートフォリオによる課題提出⑦》	復習：これまでのレポートの整理。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 B (DA302)			担当教員	韓 榮芝		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、前期 A でいくつかの国についての研究成果を踏まえ、コミュニティ・ソーシャルワークへの理解を深める。その上で、具体的な研究方法を身につけ、自分の関心課題を絞り込んで決めていくことを目標とする。課題レポートについては、ゼミ中に演習形式にて取り組んだ課題をまとめることにより、社会人としての応用力と速戦力を身につける。							①②③④⑤⑥ ⑦⑧⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	諸外国の福祉課題を積極的に取り組むことができる。				授業態度・活動への参加		5%
情報収集、分析力	アジア諸国の社会情勢を踏まえた上で日本の地域課題を的確に把握することができる。				レポート		20%
コミュニケーション力	福祉専門的な技術・技能を活用した取り組みに参加できる。				レポート プレゼンテーション		10% 30%
協働・課題解決力	諸外国における福祉専門職種のそれぞれの役割を理解できる。				レポート 発表・質疑応答		10% 20%
多様性理解力	諸外国の福祉社会の基本理念や歴史的流れを理解し、説明することができる。				出席カードコメント欄の内容		5%
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
授業への参加は評価要件とする。レジュメの作成、発表・討論（50%）、課題レポート（40%）によって総合的に評価する。レポート、プレゼンテーションのフィードバックは授業内に行う。授業の各回において、レスポンスカードに記入し提出すること、授業への参加意欲を評価する材料とする（10%）。関心課題について文献・資料を探し出し、リサーチの結果をまとめて提出する。また、それらの研究成果を1つ絞って発表し、討議を行う（1人で発表15分、討議15分程度）。							
授業の概要							
日本の社会福祉分野においては、近年東南アジアに関する研究は益々必要とされることを再確認する。そのために、ソーシャルワークの視点でコミュニティを拠点に日・中両国の社会保障・社会福祉（社会的セーフティネット）を推進していく考えを念頭に置きながら、各自で課題を発見し、関連の文献・資料を探し出し、研究成果をまとめる。授業の進め方は、各自の課題について研究成果をまとめて報告し、討論を行っていく。その中で各自の関心課題を煮詰めて絞っていく。その上で卒業論文につながるような関心・課題を見つけて題目を決める。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：指定なし 参考書：「レポート・論文の書き方入門」（単行本） 河野 哲也著 慶応義塾大学出版会 「レポート・試験はこう書く 新・社会福祉要説」 中島恒雄著 ミネルヴァ書房必要に応じ指示する 指定図書：①「コミュニティ・ソーシャルワーク」 平成23年度・平成24年・平成25年 日本地域福祉研究所発行 ②「社会福祉の国際比較—研究の視点・方法と検証」 阿部 志郎、井岡 勉（2000/4）有斐閣出版社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
国際比較研究を進めるために、社会調査の方法（フィールドワーク）についてしっかり勉強しておく。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	ガイダンス	授業の進め方及びスケジュールを把握する。	シラバスを読む、前期の振り返り及び今期の研究日程作成
2	先行文献の収集	文献収集の方法（インターネットの活用及び図書館の利用方法）について学ぶ。	文献収集の方法についてインターネットで調べておく
3	先行文献の分析	先行資料の分析・解釈について学ぶ。	配布資料の精読とフィールドワークについて調べておく
4	社会調査の基礎	実地調査の方法—フィールドワーク—に関して学ぶ。	授業内容の振り返りと指定論文の精読
5	先行論文のまとめ方	論文の基本的考え方、発想の展開法から表現上のコツまで検討する。	先行論文のまとめ及び論文の構成などについて調べる
6	課題の設定と論文の構成	課題の設定、論文の構成などについて学ぶ。	授業内容の振り返りと次回発表の準備を行う
7	個人研究発表 ①	関心課題の研究成果を発表し討議を行う。	発表内容の振り返りと次回発表への準備
8	個人研究発表 ②	同上（場合には国際比較研究として）	発表内容の振り返りと次回の先行文献の探し
9	卒業研究に向けて ①	卒業研究に即した先行文献をリサーチする。	リサーチの内容を踏まえて報告書を作成する
10	卒業研究に向けて ②	卒業研究に即した先行文献の検討及び報告	討議内容の振り返りと先行調査・集計方法について調べておく
11	卒業研究に向けて ③	卒業研究に即した先行調査・集計方法の検討及び報告	授業内容の振り返りと次回の研究課題を検討する
12	卒業研究に向けて ④	卒業研究に即した仮研究課題の設定及び検討	授業内容の振り返りと卒業研究の目的を明確しておく
13	卒業研究への取組①	卒業論文の題目設定及びその研究の目的、意義及び問題提起と研究方法の検討	卒業研究の題目を踏まえた先行文献を絞りこんで読んでおく
14	卒業研究への取組②	卒業論文に関連する文献・資料を絞り込んで、研究進捗を報告する	卒業論文の目的に即した先行文献を絞り込んで研究計画を考える
15	総括	全体の振り返りと次年度の研究計画の策定	

授業科目(ナンバリング)	専門演習 B (DA302)			担当教員	齊藤晋治		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習は、卒業論文作成へとつながる科目であり、卒業論文完成に向け、研究に必要な力量の向上を図ることを目的としている。卒業論文作成に必要な思考力、表現力を身に付けるとともに、研究手法に関する学びを深め、自身の研究に最適な研究方法を確立する。また、研究に必要な研究倫理についての学びも深める。本演習のゴールとして、卒業論文の概要、要旨について具体的な執筆にとりかかることとする。							①④⑤⑥⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	先行研究を調べ、その方法論について理解する。				・文献レビュー	20%	
コミュニケーション力	・文献検索した結果をもとに関心領域について発表することができる。				・ディスカッションへの参加	50%	
協働・課題解決力	・資料の作成、プレゼンテーションを通して、課題を的確に把握することができる。 ・他者からの意見を聞き、新たな知見として深めることができる。				・課題レポート	30%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
授業中の発言、ディスカッションへの積極的な参加 (50%)、文献レビュー (20%)、課題レポート (30%)、で総合的に判断し、評価を行う。なお、不適切な授業態度 (教科書を持参しない、遅刻、私語、携帯電話等の使用、居眠り等) は、発覚した場合に減点の対象となる。							
授業の概要							
自分の社会福祉に関する関心領域について、文献検索、レビューを行い、卒業研究のテーマを具体的にしていくとともに、卒業研究の執筆も開始していく。授業ではそれまでの成果報告の発表を行うとともに、発表内容についてディスカッションを繰り返していく。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない 参考書：特に指定しない 指定図書：明石芳彦著「社会科学系論文の書き方」ミネルヴァ書房 2018年							
授業外における学修及び学生に期待すること							
卒業論文につながる演習のため、自ら執筆スケジュールを作成するなど、主体的な参加が望まれる。授業の欠席は、できる限り事前に連絡をすること。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	本演習の目的と授業計画の説明をおこなう。 専門演習Aで作成した研究計画に基づいた、夏季休暇中の成果報告を行う。	予習：前期授業以降の進捗状況をまとめる 復習：論文の書き方について学ぶ
2	論文作成の基本①	「社会科学系論文の書き方」を通じて、文章の書き方について学ぶ。	予習：論文の書き方について調べる 復習：論文の書き方について学ぶ
3	論文作成の基本②	「社会科学系論文の書き方」を通じて、論文の構成について学ぶ。	予習：論文の書き方について調べる 復習：論文の書き方について学ぶ
4	量的研究の進め方	量的研究の概要、方法について学ぶ。	予習：研究方法について調べる 復習：研究方法について復習する
5	質的研究の進め方	質的研究の概要、方法について学ぶ。	予習：研究方法について調べる 復習：研究方法について復習する
6	卒業論文のテーマの検討①	卒業論文のテーマについて、各自が計画した内容を発表し、全員でディスカッションを行う。	予習：研究テーマについて調べる 復習：研究テーマについて復習する
7	卒業論文のテーマの検討②	卒業論文のテーマについて、つくじが計画した内容を発表し、全員でディスカッションを行う。	予習：研究テーマについて調べる 復習：研究テーマについて復習する
8	卒業論文のテーマの検討③	卒業論文のテーマについて、各自が計画した内容を発表し、全員でディスカッションを行い、テーマを確定させる。	予習：研究テーマについて調べる 復習：研究テーマについて復習する
9	先行研究のレビュー①	各自の卒論テーマに沿った先行研究について発表、全員でディスカッションする。	予習：先行研究について調べる 復習：研究テーマについてまとめる
10	先行研究のレビュー②	各自の卒論テーマに沿った先行研究について発表、全員でディスカッションする。	予習：先行研究について調べる 復習：研究テーマについてまとめる
11	卒業論文の概要の作成①	各自の卒論テーマに沿って、論文のアウトラインについて作成、発表し、ディスカッションする。	予習：概要をまとめる 復習：論文を作成する
12	卒業論文の概要の作成②	各自の卒論テーマに沿って、論文のアウトラインについて作成、発表し、ディスカッションする。	予習：概要をまとめる 復習：論文を作成する
13	卒業論文の概要の共有	各自の卒論テーマに沿って、論文のアウトラインについて作成、発表し、ディスカッションする。	予習：概要をまとめる 復習：論文を作成する
14	卒業論文の作成①	各自の卒論テーマに沿って、論文について作成、発表し、ディスカッションする。	予習：概要をまとめる 復習：論文を作成する
15	卒業論文の作成②	各自の卒論テーマに沿って、論文について作成、発表し、ディスカッションする。	予習：概要をまとめる 復習：論文を作成する